

氏名	平 林 光 司
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 9 5 号
学位授与の日付	昭和38年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系産科婦人科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	岡林式子宮頸癌根治手術後の排尿障害に関する研究
論文審査委員	教授 橋 本 清 教授 大 村 順 一 教授 福 原 武

学 位 論 文 内 容 要 旨

第一編：子宮頸癌根治手術後の排尿障害に関する従来の多くの報告は、その追求方法が静的、断面的であった為、動的連続的現象である排尿運動の実態を正確に把握し得たとは言えなかった。私は自作の電氣的膀胱内圧連続測定装置を用いて、この排尿障害患者52例に就いて膀胱内圧曲線、尿駆出圧曲線の描記、ベサコリンによる膀胱内圧変動の測定を行ない、更に後部尿道圧の測定、6例の排尿時レ線映画の撮影等により、動的連続的的追求を行って大略次の結果を得た。根治手術後早期に於ける尿駆出力の殆んどが、強力且つ巧妙な腹圧によるものである。そして後部尿道は術後その機能的意義を失い、その緊張の強弱が排尿困難度と密接に結びついている。又得られた知見は、内尿道口開大機序に関する伊丹学説の正しさを立証する論拠と成り得る事を認めた。そしてこれらの結論は、本障害の治療上重要な示唆を与え得ると考える。

第二編：本装置は Pierce 回路を利用し、水銀柱の上下に依る Air-condenser の容量変化を増幅記録するものである。

第三編：Sbarbaro, M. 式改良型（自作）、及び水野式装置を子宮頸癌根治手術後の患者70例に使用した。症例を使用法により4群に分け、各々の自尿試験の成績から見た効果、及び尿の定量的培養により感染防止効果等に就いて検討した。その結果、本法は本排尿障害に対し予防的効果を有し、且つ感染防止効果も良好な事を確め得た。そして最適の使用基準を定めた。

第四編：排泄性膀胱内圧測定法の最大の欠点は、膀胱内に蓄積している尿量が不明という点である。私は Bromsulphalein 溶液を膀胱内に予め注入しておき、内圧測定時毎に少量のサンプル尿を取り出し、これを比色定量する事により、蓄積尿量の推定を行ない得る事を、基礎的臨床的実験から確め得た。

- 備考 第1編 日本産科婦人科学会雑誌 第15巻 第8号（昭和38年7月1日発行）に掲載の予定
第2編 日本産科婦人科学会雑誌 第13巻 第13号（昭和36年12月1日発行）に掲載
第3編 日本産科婦人科学会雑誌 第14巻 第8号（昭和37年6月1日発行）に掲載
第4編 日本産科婦人科学会雑誌 第13巻 第13号（昭和36年12月1日発行）に掲載

論文審査の結果の要旨

平林光司提出の「岡林式子宮頸癌根治手術後の排尿障害に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

子宮頸癌の根治手術後には重篤な排尿障害の残るのが例である。手術操作に当り骨髄神経幹が切断され、且リンパ節廊情によって血管周辺の自律神経系も破壊されるからである。従前から術後の膀胱麻痺に関する研究も少しとしないが、あまり良好な成果はあがっていない。著者は自ら考案した計測装置の応用によって動的観察に成功した。

術後膀胱内圧曲線は hypertonic になるが術後日数の経過と共に術前曲線に近づく、術後排尿障害高度のものでは復帰が遅れている。後部尿道圧は術後一般に低下するが早期回復例に著しい。尿駆出圧は術後の方が高くなり、尿駆出圧と後部尿道圧との関係は術前と逆になる。排尿が可能になると排尿を命じると著明に膀胱内圧が上昇するが、術前にみられた様な排尿中止後の一過性内圧上昇はみられない。ベサコリンによる内圧上昇試験レントゲン映画像の所見もこの関係を裏付ける。

即ち術前には排尿筋の収縮が排尿運動の主体であったが、術後には復圧が主体となるものと考えられる。本研究は術後の排尿機能障害の解明に一大寄与をなしたものと云える。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。